

「side|twist」(部分) 所志帆、2011年、個人蔵 撮影:岡村喜知郎

板 ガ ラ ス の 表 現

くひろがるかたち、無限の可能性く

2017年 4月15日(土) — 7月9日(日)
9:00~17:00 (入館は閉館の30分前まで)

【お問合せ】 石川県能登島ガラス美術館 〒926-0211 石川県七尾市能登島向田町 125-10

TEL:0767-84-1175 FAX:0767-84-1129

E-mail: takemoto@nanao-af.jp(本展担当学芸員:竹本) / yoneda@nanao-af.jp(広報担当:米田)

- 【**展覧会名**】 板ガラスの表現 ～ひろがるかたち、無限の可能性～
- 【**会 期**】 平成 29 年 4 月 15 日(土)～7 月 9 日(日)
休館日 4 月 18 日(火)、5 月 16 日(火)、6 月 20 日(火)
開館時間/午前 9 時～午後 5 時(入館は閉館時間の 30 分前まで)
- 【**会 場**】 石川県能登島ガラス美術館 展示室 A・D
※企画展会期中には、展示室 B・C にて当館のコレクション展も行います。
- 【**出品作家**】 アビルショウゴ、家住利男、生田丹代子、小島有香子、所 志帆(50 音順)
- 【**作品点数**】 34 点
- 【**入 館 料**】 高校生以上/個人 800 円(20 名以上の団体 700 円)、中学生以下 無料
- 【**主 催**】 石川県能登島ガラス美術館(公益財団法人七尾美術財団)
- 【**協 力**】 公益財団法人中信美術奨励基金、富山市ガラス美術館、樂翠亭美術館(50 音順)
- 【**後 援**】 NHK 金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、エフエム石川、ラジオななお

■展覧会について

熱によって柔らかく溶けたガラスを平らな板状に成形することで板ガラスは作られます。視線を遮らない透明性と平滑な面を持つ板ガラスは、例えば自動車用窓ガラスや建築資材として使用され、私たちの生活に欠かすことができない製品のひとつとなっています。

板ガラスは、透明で無機質な素材ではありますが、見る角度を変えたり、光を受けたりすることで様々な表情を見せます。作家たちは、視点を動かすことで見えてくる色の深みや、反射によって鏡のように見る者の姿を映し出す、といった多様な変化を見せる板ガラスを、自身が持つイメージを具現する素材としてとらえ、重ね合わせる、削る、磨く、曲げるといった技法を施しながら、独自の造形表現を生み出しています。

本展では、板ガラスを用いて創作活動を行う現代作家 5 名(アビルショウゴ、家住利男、生田丹代子、小島有香子、所志帆)の作品を展示し、板ガラスによる表現の拡がりや造形の魅力をご紹介します。

■展覧会のみどころ

「板ガラス」という工業製品から生み出される美術作品

板ガラスは、窓ガラスなどに使われる工業製品として、私たちにとって身近な存在です。しかし、この平板でありふれた素材である板ガラスを重ね合わせ、削り、研磨することで、重なり合う線と面が奥行きのある空間を作り出すことが可能になります。本展では、5 名の作家による板ガラスによる表現への挑戦と、その拡がりをご紹介します。

シンプルな色と形がもたらすガラスの表情

板ガラスを何層にも重ね合わせて削ることで、光の透過や反射、屈折を操り、様々な表情が生まれます。層になったガラスに光があたると、その内側には光の層ができ、色のグラデーションが生まれ、光をため込んだ空間が立ち現れます。また、熱を加えて板ガラスを曲げたり膨らませることで、柔らかみがありながらも緊張感をもったフォルムを作ることができます。シンプルで無骨ともいえる素材であるがゆえに引き出される多彩な表情は、見る者の心に様々な印象を抱かせるのです。

■ 出品作家略歴

アビルショウゴ（あびる・しょうご）

1961年長崎県対馬市生まれ。1994年東京藝術大学大学院彫刻科修了。1997年富山ガラス造形研究所造形科卒業。1999年から2004年まで倉敷芸術科学大学非常勤講師を務める。

板ガラスを電気炉の中で溶かしながら、空気を吹き込み成形する独自の技法「キルンブロー」を確立。板ガラスを膨らます、曲げる、ねじる、溶着することで生み出される造形美を追求し、制作を行う。

1998年「第5回KAJIMA 彫刻コンクール」(東京)奨励賞、2008年「第9回大分アジア彫刻展」(大分)大賞、2013年「第25回UBEビエンナーレ」(山口)入選、2016年「国際ガラス展・金沢2016」(石川)審査員特別賞藤田潤賞。

現在、茨城県北茨城市在住。

家住利男（いえずみ・としお）

1954年栃木県足利市生まれ。1985年東京ガラス工芸研究所卒業。2016年まで倉敷芸術科学大学教授を務める。光の反射率が異なる数種類の板ガラスを組み合わせて出来たかたまりを削り、磨くことで成形する。生み出された作品が、見る者との間にどのような作用を起こすのか、見えに生じる変化を探求している。

1986年「国際ガラス工芸展'86」(石川)優秀賞、1993年「サントリー美術館大賞'92」(東京)佐治奨励賞、2008年「第19回富嶽ビエンナーレ」(静岡)準大賞。

現在、神奈川県南足柄市在住。

生田丹代子（いくた・によこ）

1953年京都府京都市生まれ。1976年京都薬科大学薬学部卒業。

趣味で習い始めたスタンドグラスをきっかけに、ガラスによる作品制作を開始。カットした板ガラスを幾重にも積み重ねることで空間に生まれる複雑な線や面の連なりによって、見る者に叙情的な印象を与える造形表現を展開している。

1985年「アート・ナウ'85」(兵庫)招待出品、同年「第2回インターグラスシンポジウム」(ノービヴォール、チェコ)招待制作、1989年京都市芸術新人賞(京都)、1996年「近代展20」(国立国際美術館、大阪)出品、2001年「国際ガラス展・金沢2001」(石川)銀賞、2014年第27回京都美術文化賞(京都)。

現在、京都府京都市在住。

小島有香子（こじま・ゆかこ）

1979年生まれ。千葉県出身。2001年多摩美術大学立体デザイン専攻クラフトデザイン専修ガラスコース卒業。

2006年富山ガラス造形研究所研究科修了。

「自然の光」をテーマに制作を行う。熱線反射ガラスを用いて積層させたガラスを削り出し、光を作品内部に留めることで、柔らかな光のグラデーションを表現する。

2007年「第54回日本伝統工芸展」高松宮記念賞、「国際ガラス展・金沢2007」(石川)第10回展記念特別賞、2008年「第3回現代ガラス大賞展・富山2008」(富山)特別賞(北日本新聞社 社長賞)、2015年「工芸都市高

岡 2015 クラフトコンペティション」(富山)ファクトリークラフト優秀賞。

現在、富山県富山市在住。

所志帆(ところ・しほ)

1976年岐阜県岐阜市生まれ。2001年富山ガラス造形研究所研究科修了。2015年より名古屋芸術大学非常勤講師。

板ガラスを積み重ね、溶着する作品を制作。ガラスのかたまりの中に封入された気泡による模様見え方が、見る者の視線の動きによって変化することの面白さ、不思議さを表現する。

2009年「第4回 KOGANEZAKI・器のかたち・現代ガラス展」(静岡) 旭硝子賞、2013年「国際ガラス展・金沢2013」(石川)奨励賞、2015年「第6回現代ガラス展 in 山陽小野田」(山口)土屋審査員賞。

現在、岐阜県岐阜市在住。

■関連プログラム

スペシャルワークショップ「板ガラスでオブジェ作り」

板ガラスを使ってオリジナルのオブジェを作ります。

[日時] 2017年5月4日(木・祝)、6日(土)

① 10:00～ ② 11:15～ ③ 13:30～ ④ 14:45～

[会場] 石川県能登島ガラス美術館 会議室(予定)

[対象] どなたでもご参加いただけます。

[参加費] 500円(別途入館料が必要です)

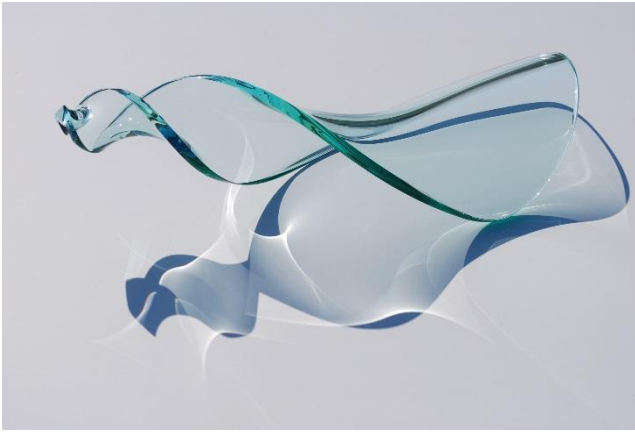
[定員] 各回7人

[所要時間] 約60分

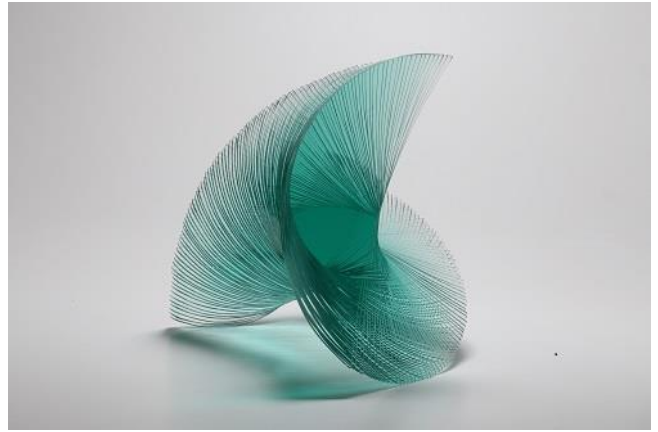
[申込] 先着順、直接会場へお越しください(申込不要)



■ 広報用画像



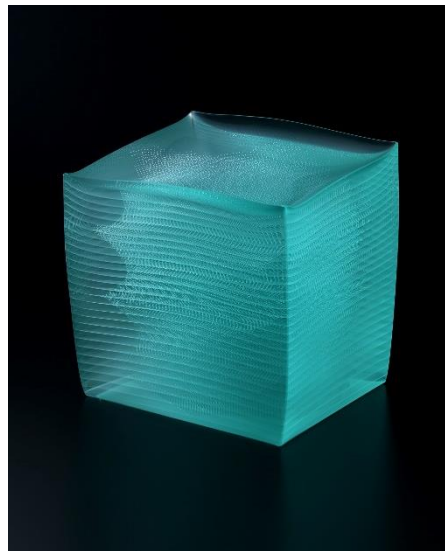
1.「旅の始まり」 2013年 アビルショウゴ 個人蔵



2.「空 - 95」 2016年 生田丹代子 個人蔵



3.「Layers of Light -Moon-#6」 2010年
小島有香子 石川県能登島ガラス美術館蔵



4.「-side(twist)」 2011年
所志帆 個人蔵



5.「M.080704」 2008年 家住利男 個人蔵

画像 1～9 を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、美術館担当者までお申し込みください。

広報担当：米田 (Email: yoneda@nanao-af.jp)

<使用条件>

- ・広報用画像の掲載時には各画像のキャプションおよびクレジットを明記してください。
- ・トリミングはご遠慮ください。作品が切れたり、画像に文字がかぶることがないようにレイアウトしてください。
- ・情報確認のため、お手数ですが校正紙を当館までお送りください。
- ・アーカイブのため、掲載誌(紙)、URL、番組収録の DVD、CD 等をお送りください。

以上、ご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。